

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																											
ES23C005		学校カウンセリング・コンサルテーションの実践研究(Studies on School Counseling, Guidance and Consultation)					教職実践コース科目																											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																												
選択	2	1	大学院教育学研究科	後期		氏名 今村裕、古庄一夫、牧英治郎 E-mail imamurayutaku@oita-u.ac.jp furusyo@oita-u.ac.jp e-maki@oita-u.ac.jp 内線 6135																												
授業の概要	本授業においては、学校カウンセリング・コンサルテーションに関する理解を深め、課題を発見し、具体的な対応を立案・検討する力を養う。																																	
具体的な到達目標											DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10									
目標1 子どもの心理的問題や不登校に関する実践的知識について深く理解する。																																		
目標2 学校におけるカウンセリングに関する実践的知識について深く理解する。																																		
目標3 カウンセリングマインドを活かした子どもとの関係づくりに関する実践的知識について深く理解する。																																		
目標4 専門機関・専門家・家庭との連携の方法やチーム援助に関する実践的知識について深く理解する。																																		
目標5 学校現場の事例を題材として、現状の課題を発見する。																																		
目標6 学校現場の事例を題材として、現状の課題に対して、具体的な対応策を立案・検討することができる。																																		
目標7																																		
目標8																																		
目標9																																		
目標10																																		
授業の内容																																		
1 授業テーマに関する学校の具体的な課題の理解																																		
2 子ども心理的な課題と支援に関する講義																																		
3 不登校の現状と課題、対策に関する講義																																		
4 学校カウンセリングと専門機関との連携に関する講義																																		
5 心理的な問題事例の分析 - 児童期に特有な心理的課題に関する事例																																		
6 心理的な問題事例の分析 - 青年期に特有な心理的課題に関する事例																																		
7 不登校への対応事例の分析 - 児童期の不登校の理解と対応																																		
8 不登校への対応事例の分析 - 青年期の不登校の理解と対応																																		
9 専門機関との連携に関する事例の分析																																		
10 家庭との連携に関する事例の分析																																		
11 チーム援助の実践事例の分析																																		
12 フィールドワーク(専門機関視察) - 教育センター・適応指導教室																																		
13 フィールドワーク(専門機関視察) - 児童相談所・教育心理相談室																																		
14 フィールドワークの報告																																		
15 学習成果の発表と総括																																		
ラ ブ ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認	調べ学修、ディベート、ペアワーク、ロールプレイ				工 夫	そ の 他 の																											
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	教員が提示する事例等について、関連資料を調べたり、自分の意見を整理したりする。																																
	事後学修	演習において討議した内容を整理し、個人の視点を明確にするとともに、まとめた事柄について、自己の視点と対照して到達点を整理する。																																
教科書	特になし。授業中に指示する。																																	
参考書	小学校学習指導要領(平成29年告示)、同解説総則編 中学校学習指導要領(平成29年告示)、同解説総則編 生徒指導提要(平成22年3月)																																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																						
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度、課題に取り組む姿勢、討論への参加等)	70%																																
	最終レポート(本授業において学んだことや今後解決すべき課題等)	30%																																
注意事項	本授業においては教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努力すること。また、経験の少ない者は経験の豊富な者に積極的に教えを請うこと。																																	
備考	現職院生が実践経験の中から個に応じた指導に関する事例等について紹介し、学部卒院生との討論やペアワーク、思考ツールの活用等のアクティブラーニングの手法を取り入れ、現職院生・学部卒院生両者の学びあい・相互評価を基本とし、実務家教員・研究者教員も参画したチームによる学習に取り組む。																																	
リンク																																		
	URL																																	

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	古庄一夫：大分県立特別支援学校及び大分大学附属特別支援学校教員、指導主事 牧英治郎：大分県公立小学校及び大分大学附属小学校教員、指導主事
実務経験を いかした教 育内容	学校の実態に応じた事例検討及びその対応・評価における課題の析出と対策の立案。